

会 告

第 82 回講演大会講演募集

— 申込(原稿同時提出)締切り 昭和46年 7 月31日(土) —

本会は第 82 回講演大会を昭和 46 年 10 月 12 日(火), 13 日(水), 14 日(木)の 3 日間金沢大学(金沢市丸の内 1-1)において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和 46 年 7 月 31 日(土)までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表
(設備技術, I E などに関する発表を歓迎いたします)
2. 講演時間 1 講演につき講演 15 分, 討論 5 分の予定
3. 講演前刷原稿 講演前刷原稿はオフセット印刷いたしますので鉄と鋼第57年第 1 号会告欄掲載の「講演概要原稿の書き方」をご覧のうえ申込時にご提出下さい。
1) 原稿は読者に研究目的, 方法, 成果などが理解しやすいようにお書き下さい。謝辞は省略して下さい。
2) 原稿は所定の「オフセット用原稿用紙」1 枚(表, 図, 写真を含め 1600 字)にタイブ印書あるいは黒インクまたは墨を用い手書きとして下さい。
なお, オフセット用原稿用紙は有償頒布いたしますのでお申し込み下さい。
4. 講演概要集 「鉄と鋼」第 11 号(臨時増刊号)として発行いたします。

申込要領

1. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は, 所定の入会手続きを済ませたうえ, 講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
2. 講演申込制限 講演申込みは 1 人 3 件以内といたします。
3. 申込方法 第57年第 6, 7 号添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上, 講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
4. 申込用紙の記載について
1) 申込用紙は(A), (B)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。

製 鉄			製 鋼				加 工					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製 鉄 基 礎	原 料 ・ 燃 料	高 炉 製 鉄	特 殊 製 鉄	フ ェ ロ ア ロ イ	製 鉄 耐 火 物	製 鋼 基 礎	溶 解 ・ 精 錬	造 塊	製 鋼 耐 火 物	塑 性 加 工	熟 処 理	表 面 処 理 ・ 防 食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄 造	粉 末 冶 金	溶 接	金 属 物 理	金 属 組 織	鋼 の 性 質	鉄 鋼 材 料	鑄 鉄 ・ 鑄 鋼	分 析	試 験 ・ 検 査 技 術	計 自 動 制 測 御	I E そ の 他 技 術	そ の 他

- 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、前記のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) スライドの要否は該当するものに○印をつけて下さい。
 - 4) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 5) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
5. 申込みの受理
下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意ください。
- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 講演内容が鉄鋼の学術、技術に直接関連がないと認められる場合
 - 4) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 5) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
6. 申込締切日 昭和46年7月31日(木)17時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
7. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
(社) 日本鉄鋼協会 編集課

第82回講演大会討論講演募集

—— 締切日(原稿ともに)昭和46年7月24日 ——

第82回講演大会の際に行なう討論会の討論講演を募集いたしますので、上記ご覧のうえ奮つてご応募下さい。

1. 討論会テーマ
 1. 高炉内における還元過程 座長 館 充君
 2. 連続鑄造(鑄造要因と材質の関係) 座長 太幸 三郎君
 3. 鉄鋼の強化組織と靱性 座長 荒木 透君
(本テーマは、金属学会「混合組織を有する合金の強度と靱性」と合同シンポジウムとして開催されます)。
 4. オーステナイトステンレス鋼の高温強度と微細組織 座長 田中 良平君
 5. 鉄鋼の格子欠陥 座長 橋口 隆吉君
2. 講演時間 1講演 20分とします。
3. 討論講演の採否 討論講演としての採否は討論会座長にご一任下さい。不採用となりました場合一般講演としてプログラムに編入いたしますので、あらかじめお含みおき下さい。
4. 講演前刷原稿 講演原稿はオフセット印刷いたしますので、第57年第1号会告欄掲載の「講演概要原稿の書き方」ご覧のうえ原稿用紙4枚以内(表、図、写真を含め6700字)に黒インクまたは墨で楷書で明りようにお書き下さい。
なお、オフセット原稿用紙は有償頒布いたしますのでお申込み下さい。
5. 申込方法 第57年第6、7号綴込み講演申込書に必要事項ご記入のうえ申込書右肩に「討論会名」を朱書し、原稿同封のうえ申込み下さい。
6. 申込締切日 昭和46年7月24日(土)

「鉄と鋼」特集号のお知らせ

テーマ『高炉の複合送風』

本会編集委員会では、会員各位に本誌をよりよくご活用いただけるよう本年より年2回程度の特集号の発行を企画し、編集をいたしております。

今回は羽口以外の箇所からの還元ガス吹込みをも含め標記「高炉の複合送風」をテーマに下記により編集いたすことになりましたので、関連した論文あるいは技術報告をふるつてご投稿下さるようご案内いたします。

記

1. テーマ 「高炉の複合送風」
2. 論文締切日 昭和46年8月14日(土)
3. 発行予定 「鉄と鋼」, 第58年第5号(昭和47年4月号)
4. 原稿送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会 編集課

昭和 47 年春季(第 83 回)講演大会討論会 討論講演募集のお知らせ

— 申込締切：昭和46年8月14日 —

本会では講演大会における討論会が活発で有意義なものとなるよう会員各位から伺ったご意見を参考に種々検討を重ねてまいりましたが、昭和47年春季(第83回)講演大会より、従来の方法を改正、討論テーマ発表を1年前に行ない、討論講演の会誌掲載を現在より2カ月早めて、講演に対する討論者を公募することにいたしました。

昭和47年春季(第83回)講演大会討論の討論講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

記

1. 討論会テーマ

1. 高炉における SiO_2 の還元

座長 川 合 保 治 君

炉内採集試料よりみた高炉内におけるメタル中の Si 含有量の変動とそれに影響する SiO ガス生成および吸収、メタル-スラグ間反応 (SiO_2 還元速度) などに関する諸問題を取りあげて討論いたしますので、奮ってお申し込み下さい。

2. ステンレス鋼の精錬

座長 不 破 祐 君

ステンレス鋼の溶製およびその真空精錬に関する今回の討論会は、その基礎となる諸反応の問題を主題とします。これらの溶製および精錬に関する基礎的研究の講演を公募いたします。

なお、この問題についての討論会は今後も続ける予定であります。

3. 強力鋼の微視組織と遅れ破壊

座長 荒 木 透 君

つぎの三つの観点からの講演および準備討論(実験データ発表)を公募いたします。

1. 高強度の鋼と環境破壊力学(亀裂伝ば特性を中心)
2. 鋼の遅れ破壊現象の基礎過程の機構に関する研究(格子欠陥, ミクロ亀裂と水素, 含水素化合物との相互作用)
3. 各種合金鋼の熱処理組織と遅れ破壊挙動の関連(ミクロフラクトグラフィ, 微視組織解析による実証)

4. 鉄鋼と非鉄 BCC 金属の異方塑性

座長 橋 口 隆 吉 君

BCC 金属が FCC 金属と著しく異なる塑性挙動を示すことが、もつとも顕著にあらわれる異方塑性の問題を主題とする講演を募集いたします。

—以上のほか加工関係から1件討論テーマを検討中であります。

2. 申込締切日 昭和46年8月14日(土)

3. 申込方法 本誌綴込みの申込用紙(オレンジ色)に必要事項ならびに申込書裏面に450字程度の講演のabstractをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のabstractにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和46年11月4日(木)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙4枚以内(表, 図, 写真を含め6700字)に黒インクまたは墨で楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第58年第1号(昭和48年1月号)にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第58年第2号(2月号)に講演内容を掲載いたします。(従来より2カ月早くなっております)。

8. 討論質問の公募締切日 昭和47年3月上旬

前記第2号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先：100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021 (代)

第13回西山記念技術講座開催のお知らせ

テーマ：構造用形鋼に関する諸問題

本会主催の第13回西山記念技術講座を下記により開催いたしますので奮つてご参加下さいますようお願い申し上げます。

1. 期 日 昭和46年8月26日(木)、27日(金) 9:30~17:00
2. 会 場 農協ホール(千代田区大手町1-8 農協ビル9階 TEL 03-279-0311)
3. 演題および講師
 - 第1日 8月26日
 - 9:30~12:00 構造用形鋼製造技術について 新日本製鉄 渡辺秀夫君
 - 13:00~15:30 繰返し荷重を受ける建築構造物の弾塑性性状 京都大学 若林実君
 - 第2日 8月27日
 - 9:30~12:00 長大橋と高張力鋼 本州四国連絡橋公団 田島二郎君
 - 13:00~15:30 構造用形鋼材に関する現状とその問題点
—建築設計者の認識と提言— 日建設計 多田英之君
4. 聴講無料
5. テキスト代 未定
6. 連絡先 日本鉄鋼協会技術部編集課 Tel. 03-279-6021
7. 講演概要

1. 構造用形鋼製造技術について 新日本製鉄 渡辺秀夫君
構造用形鋼のなかで、最近主として用いられているH形鋼にしぼり、その製造技術について述べる。
1. H形鋼の生いたち、2. H形鋼の製造方法、圧延方法、圧延機、レイアウト等、3. H形鋼の特徴、材質および寸法精度、4. H形鋼の圧延機構、5. H形鋼の残留応力、6. 超極厚H形鋼の材質
7. 今後の課題 使用者、製造者の立場にたつた今後の課題。

2. 繰返し荷重を受ける建築構造物の弾塑性性状 京都大学 若林実君
建築構造物が地震力のような繰返し力を受けるときの弾塑性性状についての実験結果および解析の方法などについて概説する。まず材料・部材・接合部などの低サイクル疲労の問題について簡単に述べる。次に部材ならびに接合部の履歴特性について述べ、さらにこれらの組み合わせによつて構成される純フレームおよび筋違付きの骨組の履歴特性に関する実験ならびに解析について述べる。

3. 長大橋と高張力鋼 本州四国連絡橋公団 田島二郎君
わが国の橋梁の標準設計示方書での使用鋼材は、道路橋においてSM58まで、鉄道橋においてSM53までの強さである。しかし、最近の橋梁長大化の傾向は、より高強度な鋼材の実用化によつて支えられ、既に着工された大阪の南港連絡橋、現在計画が進められている本州四国連絡橋では、80キロ鋼までの採用が考慮されている。この小文は、本四架橋においてこれら高張力鋼を採用するに当り、設計面よりの調査の概要を紹介するものである。

4. 構造用形鋼材に関する現状とその問題点
—建築設計者の認識と提言— 日建設計 多田英之君
先づ、鉄骨構造物設計における一般手法について概説し、その中で、接合部設計と部材断面決定のからみ合い、および鋼種決定に関する市場コストと納期の問題がどのような影響を設計に与えているかを述べる。

次に、形鋼材に関する私の認識を明らかにし、主題に触れる。すなわち形状寸法と製品シリーズにおける加工法の進歩、設計技術の発展と新形鋼材のメリット、デメリット、などについて述べ設計実績からの使用動向を分析し、設計者としてどのような点に関心をもちその改善を期待するかを述べる。